

～ 産地として選ばれる「なのはな米」 1等比率95%以上を達成しよう！！～ H30JAなのはな米品質向上運動実施中

今年のコシヒカリは茎数が多く、幼穂形成期（幼穂長2mm）は7月11日頃と見込まれます。草丈、葉色など生育状況を的確に把握し、適切な穂肥施用などの技術対策により過剰着粒による品質低下（白未熟粒の発生）を防ぐとともに、登熟向上に努めましょう。

1. コシヒカリの穂肥施用

(1) 肥効調節型基肥肥料による栽培の場合

出穂7日前（7月末頃）に必ず葉色を確認し、**葉色が3.8（砂壤土は4.0）以下**の場合は、出穂までに「追肥3号」を7kg/10a施用し、登熟期間中の栄養維持を図りましょう。

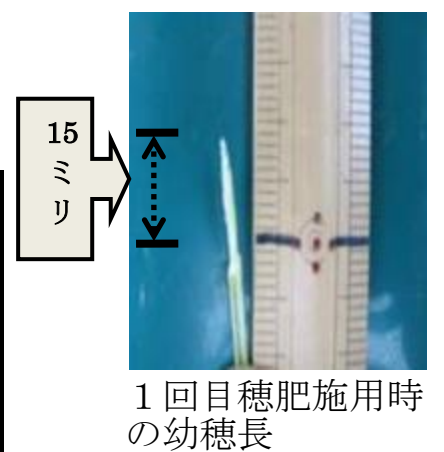
(2) 分施肥の場合

- ・ 1回目の穂肥は、**幼穂長15mm（2mmを確認して8日頃）を基本**としますが、葉色が濃く、草丈が長い場合は施用を控えましょう！
- ・ 2回目の穂肥は、1回目の7日後を目安に、基準量を確実に施用しましょう。

表1 穂肥施用の目安（分施肥の場合）

1回目穂肥施用時（幼穂長15mm時）の生育状況			1回目穂肥 7月19日頃（※5/12田植え）	2回目穂肥 （1回目穂肥の7日後）
葉色	草丈	稲の姿		
3.6程度	82cm未満	スッキリ	10kg/10a以内	10～13kg/10a
4.0以上	87cm以上	メラメラ	施用しない	10kg/10a以内

肥料：追肥3号



1回目穂肥施用時の幼穂長

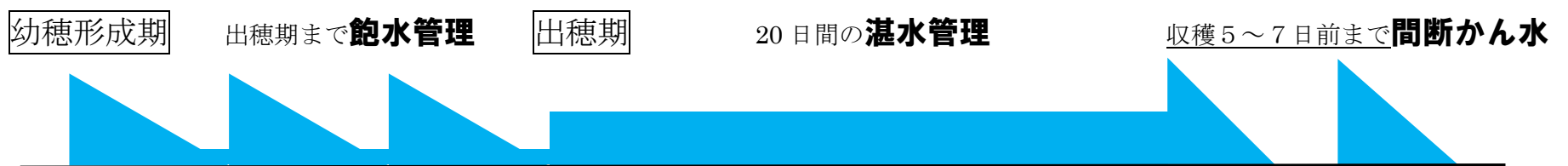
生育が目標値をやや上回る場合は、1回目の施用時期を2～3日遅らせ、施用量は7kg/10a程度としましょう。

2. 水管理

《幼穂形成期～出穂期まで》
～飽水管理で根の活力を維持！～
足跡に水が残る程度になったら入水し、水不足に注意しましょう。



《出穂期以降》
～湛水管理で登熟を向上！～
出穂期から20日間は湛水状態（田面が出ない程度）を保ち、稲体の活力を維持しましょう。



3. 病害虫防除

今年からカメムシ重点対策により防除体系が変更しています！！

斑点米カメムシ類が昨年並みに多発しています。畦畔等の草刈りを励行するとともに、全品種2回の基本防除を徹底し、斑点米の発生を防ぎましょう。

表2 防除時期の目安

体系	防除時期	薬剤名	散布量	てんたかく (7/21 出穂)	コシヒカリ (8/1 出穂)	てんこもり (8/8 出穂)
粉剤	穂揃期	ビームクラブジョーカー粉剤DL	3～4 kg/10a	7/23～25	8/3～5	8/10～12
	傾穂期 (1回目散布の7日後)	トレボンスター粉剤DL	3～4 kg/10a	7/30～8/1	8/10～12	8/17～19
粒剤	出穂10日前頃	フジワンラップ粒剤	4 kg/10a	7/11頃	7/22頃	7/29頃

《留意事項》 ※各品種の田植時期はてんたかく:5/5頃、コシヒカリ:5/12頃、てんこもり:5/9頃で推定
○田植日等により生育が異なります、防除前に必ずほ場の出穂状況を確認しましょう。
○防除の際は、農薬の使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう。